令和５年度第２回いわてで働こう推進協議会　議事録

（日時）　令和６年２月７日（水）10 時 00 分 ～ 11 時 45 分
（場所）　岩手教育会館　多目的ホール

１　開会

２　挨拶

【会長】

令和５年度、２回目の「いわてで働こう推進協議会」になります。お忙しい中ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

今年は、１月１日、能登半島地震という衝撃的な大きな災害がありました。犠牲になられた方々のご冥福をお祈りし、被害を受けた皆さんにお見舞いを申し上げたいと思います。岩手県からもそれぞれ、医療、保健福祉その他現地に駆けつけ、その後も県や市町村からの応援も入っておりますけれども、それぞれの分野、また、地域的にも支援の動き、さまざま支援いただいていることに御礼申し上げます。県といたしましても、皆様と情報共有しながら、東日本大震災被災県としてオールいわてで被災地支援をしていきたいと思います。

いわてで働こう推進協議会でありますが、今年度はいわて県民計画第２期アクションプランの初年度であり、人口減少対策に最優先で取り組んでいるところであります。当協議会におきましても、昨年６月の第１回協議会におきまして、「いわてで働こう宣言 2023」を策定し、協議会の４つの取組の柱「県内定着」の促進、「Ｕ・Ｉターン」の促進、「雇用労働環境」の改善、「起業・事業承継」の支援にオールいわてで取り組むことで、若者や女性等が住みたい、働きたい、帰りたいと思っていただける岩手を創造するための機運醸成を図ってまいりました。

今日は、今年度協議会構成機関等が取り組んできた内容を再確認するということ、また令和６年度の協議会の方針に基づく具体的な方策について御審議をいただきます。また、適切な価格転嫁等を通じた賃金引上げ等の機運を醸成するため、「賃金引上げ」、「年収の壁」を意識せずに働くことができる環境づくりについて、協議を行いたいと思います。

本協議会を核として、若者や女性の県内就職等を進めてまいりたいと考えておりますので、本日は忌憚のない御意見を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

３　議事

(1) 報告事項

令和５年度事業の取組状況について（説明の記載省略）

○　岩手大学

岩手大学です。現在の就職データの提出状況は、51％と約半数の状況ですが、学部の就職内定率は 96.5％、県内就職内定率は現時点で 27％という数値です。昨年度 32.3％であったことを考慮しますと、県内就職率は減ということになりますが、最終データではありません。ただ、気になりますのが、昨年 32.3％に対し、一昨年は 37.9％でした。昨年は一昨年より 5.6 ポイント下がったということになります。その内訳は公務員が 30 名減ということで、そ

の他の職種に大きな変動はありません。したがって公務員の合格者が少なかった、ということになります。さらに解析を進めますと、その学生たちが入学したときの状況は、県内合格者が大きく減少していました。つまり県内の合格者の比率が下がっているということになります。県内就職者の約７割が県内出身者ということで大きな変動のないことを鑑みますと、初等中等教育の強化や、高大連携により県内合格者を増やすことが重要と考えます。入学後のキャリア形成の促進については、３年次の具体的な就職活動時に加え、１、２年次から教養教育科目「キャリアを考える」等の中での、県内企業の紹介や、ジョブカフェいわてと協力して色々な形での活動をしております。これらの活動を通じて地元定着を進めていきたいと思いますが、現時点での数値は少し減少傾向にあることを危惧しています。

【会長】

ありがとうございました。岩手県立大学お願いします。

○　岩手県立大学

岩手県立大学でございます。先ほど県からの御説明にもありましたとおり、県内就職率の向上が本協議会の取組目標のひとつとされておりますので、本学の状況につきまして御報告させていただきます。

本学では、今年度からの新たな６か年の中期計画におきまして、県内就職率をコロナ禍前の５か年平均値 51%から 53.5%に引き上げる数値目標を設定したところでございます。コロナの影響で地元志向が高まりました、令和３年度の卒業生におきましては、看護学部と総合政策学部で過去最高の県内就職率を記録し、短大を含む全学部平均でも約 57%と高い県内就職率を確保することができたところでありますが、残念ながら昨年度は 50%を切り、今年度は１月末現在の状況でございますが、全学部平均で約 42%にとどまっております。これは、コロナ禍の令和３年度と比較いたしまして、県外企業からの求人が約２倍に増加していることや、県外企業の早期選考が進んでいること、また、オンラインの普及により遠方の企業にもアプローチしやすくなったことなどが要因の一つと考えているところです。

このため、次年度に向けましては、来月３日間にわたって開催する県内企業を中心とした学内合同企業説明会を皮切りに、関係機関と連携した県内の企業・業界セミナーの開催や、就業体験を含む低学年次生向け地域学習科目の開講や、他大学と連携したインターンシップの長期休暇期間における集中的実施など、県内企業への理解が一層進むよう取り組んでまいりたいと考えております。また、首都圏等に就職した卒業生に対しましても、本学が所有するＯＢ・ＯＧ情報や、学部において新たに整備したＬＩＮＥグループを活用して、県内企業の求人情報を提供するなどＵターン希望者への支援を行ってまいりたいと考えています。引き続き県内各関係団体・企業の皆様の御協力をいただきながら県内就職率の向上に向けた取組を進めてまいりたいと考えていますので、御支援御協力のほどよろしくお願い申し上げます。以上でございます。

【会長】

ありがとうございました。岩手保健医療大学お願いします。

○　岩手保健医療大学

岩手保健医療大学でございます。本学は開設７年目で、３月に４回生 81 名が卒業します。１名だけまだ内定を受けておりませんので、80 名に関しましては内定を受けました。看護学部単科の大学でございますけれども、看護師として 68 名、保健師として９名、助産師コースがないので、進学コースに３名行く予定になっています。保健師はこれまで２、３名ということが多かったので、今年度一番多くなりました。20 名のうち９名ということで、高い率になっているのかなと思います。このうち岩手に就職する人は５名ですが、多くなったことが新たなことかなと思っています。今の段階で岩手に 43 名就職することになっていますので、56％になります。医療局にも 14 名採っていただいていまして、昨年は 60％だったので今年度よりも高い結果だったのですが、ずっと 50％以上は保っていますので、就職率は岩手では高いほうなのかなと思っています。関東方面にも 21％ということで、岩手の出身の方が８割ほどいらっしゃるのですが、その中で東京の方で勉強したいと大きな大学病院などに就職した学生もいますので、そこも含めてＵターンをしてくれればありがたいなと思っております。今週末保健師、看護師の国家試験が仙台であります。昨年合格率がいろんな事情があって悪かったので、今年は全員合格を願っているところです。

大学院もございまして、社会人なので今の職場に継続して修了後も就職する予定となっております。

先ほど話にもありましたが、岩手に残っていただけるようにと考えていますけれども、実は実習病院として御協力いただいたところへの就職率も高いので、実習していいなと思うところに行くということもありますので、受入側との関係性も含めまして引き続き協力して参りたいと思っていますので、御支援よろしくお願いいたします。以上でございます。

【会長】

ありがとうございました。盛岡大学お願いします。

○　盛岡大学

盛岡大学の高橋でございます。本学は文学部、栄養科学部、短期大学部がございます。学生は、県内出身者が８割を占めており、７割くらいが県内に就職するということで、大きな変化はございません。ただ、皆様ご承知のとおり、短期大学部の志願者が全国的に激減していることと、大学自体の志願者が減っているということで、率は変わりませんが数そのものが減っているので、就職する数も減っております。小学校中学校の教員を数多く輩出しておりますが、教員志望者が年々減っておりまして、これは教員の働き方改革の報道等を学生が耳にしていることも踏まえてか、従来のように教員になりたいという学生が減ってきております。それから短大の保育士の就職率は 100％ですが、県外からの採用が多くなっています。基本的には岩手県出身者が多いので、地元就職を第一に考えております。大学としてはだいたい 1600 人くらい、１学年 400 人くらい、短大は定員 120 人ですが、なかなか厳しい状況で、２学年合わせて 200 人いくかどうかの学生数です。母数が少ないが率は変わらないという状況で、今後もこういう状況が続くものと考えています。今後もご指導をお願いしたいと思います。

【会長】

ありがとうございました。修紅短期大学お願いします。

○　修紅短期大学

修紅短期大学です。本学は現在のところ、就職内定率は100％ということになっています。食物栄養学科が閉科したので、幼児教育学科のみとなりました。一関市内にそのうち７割が就職します。県外出身者を含めますと、93％がそれぞれの地元に就職ということになります。地元に帰る理由として、幼児教育学科ですので、幼稚園や保育園にいたときに憧れた先生がいた園に戻りたい、また、県外への就職はなかなかない学校ですので、県外に行っても修紅短大の卒業生が園長をしている、とかそういうところにお願いして、後輩を育ててくださいとお願いしています。また実習したところはだいたい採用しているところが多いのですので、きちんとした人間関係が構築できるところに就職していると思います。

また、本学では SDGs を考えていろんなことをやってきましたが、今年度は岩手県林業労働対策基金の千葉様に御協力いただき、幼稚園や保育園の子どもたちに木に興味を持ってもらう活動を行いました。この子どもたちの中に将来、岩手の林業の担い手が育ってほしいと思います。

地元就職率は高いですが、人数は非常に少ない。ただ、本学は就職先にずっと働き続ける学生が多く、信頼は高いのかなと思っております。以上です。

【会長】

ありがとうございました。全体としてやはりコロナの５類移行の影響で東京一極集中の流れが出てきていると感じるところがあります。また、盛岡大学さんから教員志望者が減っている要因として、今の教員を取り巻く社会情勢、そういった情報に対し敏感に反応しているところがあるのだなと思いまして、岩手で働くことに関して役に立つような情報をどんどん伝えていくことが大事なのかなと感じました。

(2) 協議事項

ア　令和６年度事業の取組について（説明の記載省略）

○　岩手県高等学校長協会

岩手県高等学校長協会です。キャリア教育の推進にかかわりまして、商工労働観光部、各広域振興局、市町村、各大学、各団体・企業の方々から多大なる御支援御協力を賜りましてありがとうございます。各学校では、企業見学ですとか地域を知る探究活動、関係機関が実施する事業に参加することを通じて、県内企業への理解を深めるとともに、岩手で働く魅力や将来展望を考える機会を作っております。

少し具体的な話をした方がいいかと思いまして、盛岡第一高校は進学を希望する人がほぼ100％の学校ですけれども、本校でどういった取組をしているのか御紹介させていただき、今後の戦略の立て方の参考にしていただければと思います。

本年度、盛岡広域振興局経営企画部産業振興室の御支援をいただいて、１学年全体を対象に地元企業の見学会を企画しました。企業や業界が抱える課題や課題解決に向けた取組を知って、探究活動のヒントを探すことを目的として取り組んできたものです。その中で実際に生徒からこんな感想がありました。「実際に働いている姿を見て、将来の自分のビジョンが明確になってきた」とか、「働くとはどういうことか、会社とはどういうところか、などのイメージを具体的に持つことができた」、「世界に負けない技術や充実した会社の設備を見て、就職する時の選択肢に加えて考えてみたいと思った」などという感想が聞かれました。やはり高校生といっても地元にどんな企業があってどんな活動をしているのか知らないわけですね。そういう意味で、進学をメインに考えている子どもたちにも考える機会をどんどん作っていくことは必要だろうというふうに思っております。

それから、「未来のワタシゴト創造プロジェクト」、「未来のワタシゴト探究会議」にも参加させていただいて、「いろんな人と交流することで、自分の見えていないものが見えてきた」とか「岩手の企業の様々な魅力を知ることができた」といった感想がありましたし、このイベントに参加した本校のあるグループは、イベントで得た情報をもとに、バーチャルユーチューバーを使って岩手の魅力を発信する取組ができないか探究活動を進めていたりしています。

もちろん、就職を考えている生徒に対して直接働きかけることも大事ですけれども、少し時間がかかるかもしれませんが、進学を考えている生徒にもこうした取組を進めることによって、生徒自身に岩手の魅力や課題を考えさせ、将来岩手に戻って働くことにつながってくれればいいと思っています。特に「未来のワタシゴト探究会議」は、盛岡開催ですので、例えば沿岸や県南にも広げると、さらに参加する生徒が増えて、それこそ「ワタクシゴト」として考える生徒が増えてきてくれるのではないかと考えています。以上です。

【会長】

ありがとうございました。ふるさといわて定住財団お願いします。

○　公益財団法人ふるさといわて定住財団

ふるさといわて定住財団理事長の藤澤です。当財団の主な事業について、本年度の状況と

併せて来年度の計画案について御説明申し上げます。

初めに就職イベントについてですが、就職マッチングフェアは、本年度も県内で５回実施しております。なかでも８月のお盆の時期のフェアについては、令和４年度から盛岡駅近くのアイーナで開催しており、今年度は、先ほど三河室長のお話にもありましたが、県のおかえりプロジェクトと連携して開催した結果、県外からの参加者が増加しました。また、当年度から県主催の保護者向けセミナーを当財団の就職マッチングフェアの会場で２回ほど開催していただいたところ、親子での就職マッチングフェアの参加が増えました。令和６年度は、就職活動の早期化や学校側の意向を踏まえまして、３月に実施していたフェアをひと月早めて開催したいと考えております。

次に、岩手県Ｕ・Ｉターン就職フェアについてです。昨年９月に東京都で開催したフェアにつきましては、県の全県移住フェアと合同で開催しました。俳優ののんさんをゲストに迎えまして、トークセッションを実施したところ、非常に多くの方にご来場いただきまして、583 人と、昨年の単独開催実績の７倍でした。来年度についても全県移住フェアと合同で開催したいと考えています。なお、仙台でも実施していますが、今年度のフェアは２月 10 日㈯に開催いたします。来年度につきましては、ひと月早めて１月に開催したいと考えております。

なお、マッチングフェア等の実施によって実際に就職に結びついた数ですが、令和４年度の県内の就職マッチングフェアには、882 名が参加しましたが、就職活動交通費の支援等による実績と合わせると、125 名が県内企業へ就職しています。それからＵ・Ｉターンフェアにつきましては、145 名中 15 名の方々が県内就職に結びついています。

次に、就職活動交通費の支援についてです。今年度から企業がインターンシップで得た学生の情報を採用活動に使用できるようになったことに伴い、従来の交通費に加え、学生が県内企業へのインターンシップに参加する際の宿泊費についても支援することとしました。宿泊費の支給実績は今のところ十数件程度ですが、県内企業でインターンシップの取組が増えることによってさらに活用されていくものと考えております。

最後に、就職情報等の提供です。今年度新たに財団の事業でＸ（旧 Twitter）を活用して毎日発信をしております。その結果、フェアに出展いただく企業さんからも積極的に発信いただけるようになりました。その効果として、財団のホームページへのアクセス数が、12 月末現在で月平均 34,000 件となり、昨年度と比較して月平均 8,000 件増加しています。このアクセス数の増加を県内定着に結びつけられるよう、今後も皆様の御協力をいただきながら、県の事業と連携して取り組んでまいりたいと思います。以上でございます。

【会長】

ありがとうございました。高校生が就職・仕事に関する情報を得る機会がないまま大学に進学し、ゼミの先生、ゼミやサークルの先輩からの限られた情報＋世の中の雰囲気で就職が決まってしまうというそういうやり方でいいのかと問題意識をもって、高校生自らが YouTube で岩手の情報発信ということで、若者が就職を決めていくやり方や構造を高校生自身が変えていこうといういい活動だと思います。

そして、ふるさといわて定住財団からは、いろんな形で岩手の仕事と就職に関する情報を提供し、人もたくさん来ていただけていていい活動ではないかなと思います。

(2) 協議事項

イ　「賃金引上げ」、「年収の壁」を意識せずに働くことができる環境づくりについて（説明の記載省略）

○　日本労働組合総連合会岩手県連合会

初めに、年収の壁についてでございます。連合といたしましても、課題認識そのものは同意でございます。ただし、中長期的な視点で人への投資の促進を優先すべきものと考えておりまして、これまですべての労働者への社会保険適用を求めてきたところでございます。本日説明がありました措置につきましては、むしろ制度を複雑化させるとともに、根本的な解決につながるとは言い難いものと受け止めておりまして、そういった懸念を持っております。時限措置ながらすでに制度化されておりますので、この場では簡単に意見表明にとどめておきたいと思います。

次に、賃金引上げについてでございます。昨年の状況につきましては、報告があったとおり 30 年ぶりとなる大幅な賃金の引き上げが実現いたしました。しかしながら、実質賃金が実に 21 か月連続でマイナスであることからも、昨今の物価高騰には追いつくことができなかったと受け止めております。このことを受けて連合本部におきましては、今年の春闘では、昨年を上回る賃金引上げが必要との観点から、５％以上の目標を掲げ、「みんなで賃上げ。ステージを変えよう！」のスローガンのもと、果敢に労使交渉を展開していくこととしております。

私ども連合は労働組合でございますから、そもそも賃金は労使交渉によって決定すべきものと承知してございます。しかし日本全体の推定組織率は 16.5％しかございません。つまり多くの企業には労働組合が存在しておらず、労使交渉できる状況にはないということでございます。従いまして、そういった企業におかれましては、使用者様の御理解のもと、賃金引上げを行っていただく必要があると思っているところでございます。私ども連合が目指すみんなで賃上げの実現のためには、価格転嫁、価格交渉、環境整備がポイントであると考えております。先ほど御説明いただきました価格交渉に関する指針を十分に活用しまして、大手企業は能動的な価格転嫁の努力を、中小企業は遠慮せずに価格交渉、そして政府がその環境整備を行うことが肝要であると考えています。中小企業を含めまして賃上げの原資をしっかり確保する、これがみんなで賃上げの必要条件だと考えているところでございます。モノやサービスは安ければ安いほどよいということではなく、働きの価値に見合った適正な価格が大事であると考えます。このことを企業はもちろん、私たちを含む多くの生活者にも周知啓発していくことが必要だと考えているところです。今年を含めた継続的な賃金引上げ、実質賃金の引上げは個人消費の活性化はもとより、経済社会が新たなステージのもとで好循環と活力を取り戻すことにつながると考えるものです。また、そのことによって人材確保の困難性がいわれる現状において、多くの人たちに岩手で働いていただくことにつながるものと考えるところでございます。私からは以上でございます。

【会長】

ありがとうございました。続いて、岩手県経営者協会からお願いします。

○　一般社団法人岩手県経営者協会

岩手県経営者協会で専務理事をしております、藤田でございます。どうぞよろしくお願いいたします。先ほど御説明がありましたとおりに、政府からの持続的な賃上げの要請、また最近の物価上昇に伴う社会経済状況を勘案すれば、経営者サイドとしましては、賃金引上げの機運醸成には一定の理解をするものでございます。一方で、コストプッシュ型による高い物価上昇局面にある現在、賃金引上げにあたっては、賃金決定の大原則というものがございます。これは当たり前のことでございまして、企業の様々な要素を勘案し、検討したうえで、企業が主体的に判断した結果として賃金決定を実施すべきという考え方でございまして、一律にそれぞれの企業の経営状況を無視して行うべき性格のものではないということは言うまでもありません。特にも中小企業小規模事業者の割合は、先ほどの説明でも全国で７割、本県においては９割を超す実態でございます。これら企業とそこで働く従業員の皆様が本県の産業経済を支えているものでございまして、これら中小企業等のそれぞれの経営実態を勘案してそれぞれで賃金引上げの議論がなされるものと考えます。

昨年当協会、そして東北各県の経営者協会の会員企業を対象にした調査では、賃金引上げの鍵を握る、いわゆる価格転嫁につきましては、コスト上昇分の 50％以上を転嫁できた企業の割合は 36.9％に留まっております。東北全体では 32.7％ということになってございます。このため、中小企業小規模事業者における生産性の改善・向上、そして価格転嫁を通じながら賃金引上げの原資を確保していくことが必要でございます。さらに、国・県に実施していただいております各種支援策を有効に活用しながら、社会全体として賃金引上げに向けた環境整備、意識醸成を図っていくことが肝要であると私どもは考えております。以上でございます。

【会長】

ありがとうございました。中小企業団体中央会お願いします。

○　岩手県中小企業団体中央会

岩手県中小企業団体中央会会長の小山田でございます。よろしくお願いいたします。まずは、県内中小企業の現状と課題についてでございますけれども、県が１月 11 日に公表した、令和５年 11 月分のエネルギー価格・物価高騰等に伴う事業者の影響調査結果では、コロナ禍から続く経営での影響は、県内企業の約９割が継続しているとし、価格転嫁については、７割以上の企業が必要な価格転嫁ができていないと回答し、依然として厳しい経営環境が続いております。

一方で、県内労働者の所得状況は、令和４年の毎月勤労統計調査における岩手県の所定内給与額は、全国で 33 番目となっており、また、同じ年の就業構造基本調査に基づいて試算しますと、本県の 10 代後半の正社員の年収中央値は、全国の中央値を上回る水準にあります。県内企業の多くは、最低賃金にかかわらず可能な限りの努力を行い、賃金を決めているものと考えております。価格転嫁に関しましては、昨年７月 12 日に行われました、価格転嫁の円滑化による地域経済の活性化に向けた共同宣言の実施、また先程来御紹介がありました、労務費の適切な転嫁のための価格交渉に関する指針がありますが、これを実効性のある取組として行い、効果が発揮されることを期待しております。

今後も中央会はＤＸ化の推進等による生産性の向上、国の経済対策や県の各種支援制度の活用を促進する支援の強化、資材高騰や価格転嫁等を加味した官公需契約額の見直しと伴走型支援に取り組んでまいります。

国、県、市町村、産業支援機関、金融機関と連携いたしまして、中小企業で働く従業員の賃上げの実現に取り組んでまいりますので、御支援御協力のほどお願い申し上げます。以上でございます。

(3) その他

ア　総実労働時間の削減、休暇取得促進について（説明の記載省略）

質問・意見なし

(3) その他

イ　いわてネクストジェネレーションフォーラム 2023 提言について（説明の記載省略）

質問・意見なし

＜総括＞

○　岩手大学　小川学長　※いわてで働こう推進協議会　副会長

協議会を振り返って、やはり高等教育機関に携わる者として、高度専門職業人を県内に安定的に輩出していく重要性を改めて実感いたしました。

岩手大学は毎年 1,000 名を超える学生を輩出するわけですが、その学生全員を対象にアンケートを実施しています。その中の就職選択先で重視したいというアンケート項目のもっとも多い回答は「自分がやりたいことができる」という回答でした。学生ですから、大学で学んだ専門性を活かしたいということが窺えます。その後、「労働条件や福利厚生などの待遇」、「仕事を通じて成長できる」と続きます。実は、「給料が高い」は「その他」を含めた 18 項目の選択肢のなかで８番目でした。もちろん、給与が高いに越したことはありませんが、大切なことは高等教育を受けた学生たちにとって、やりがいがある、働きやすい環境を整えることであり、給与一辺倒の考え方や都市部との格差の埋め合わせの方向性にならないことが重要ではないかと思っております。

ちなみに昨年３月に卒業した学生のうち 32.1%にあたる進学者を除くと、就職先のベスト３は岩手県庁、盛岡市役所、キオクシアと続きます。全体の傾向はやはり公務員志向が大きいですが、企業誘致による定着促進には一定の効果が出ていると見て取れます。その他県内の中小企業への就職者もいますが、一企業当たりの採用数が少ないので順位としては上がってこないところです。おおよそ３分の１が大学院進学、３分の１が民間企業、３分の１が教員、公務員、その他というのがここ数年の割合になっています。最近は大学院進学が順調に増加していますので、大学院進学も含めて県内に高度専門職業人を輩出したいと思っておりますし、就職率も東北全体をみれば 60%を超えていますので、域内への貢献という意味では地方大学としての一定の役割を果たしていると思いますし、これからも尽力していきたいと思っています。以上です。

○　**岩手県中小企業団体中央会　小山田会長**　※いわてで働こう推進協議会　副会長

県内の中小企業は、コロナ感染症の５類への移行後、一部に上向きな産業がある一方で、長期にわたるコロナ禍、物価高騰などにより、業績が大幅に悪化している事業者も多くあります。人材不足やエネルギー、原材料、物流コスト等の高騰の影響、さらには大幅賃上げの要請、デジタル技術の活用によるＤＸの推進、カーボンニュートラルへの対応など県内中小企業の経営課題は山積しております。

また、賃上げに関しましては、先ほどもお話しいたしました適切な価格転嫁による原資の確保が進むよう、取引環境の整備改善が必要となっております。多くの中小企業経営者は、人材の確保はいわゆるコストではなく投資であると認識しております。本県には魅力的な企業がたくさんあるわけでございますけれども、残念ながら知名度が低いこともあり、人材の採用に苦戦しております。こうした人材採用の課題解決に向けて、働き方改革を加速化するためのＡＩやＩｏＴ等デジタル技術を活用しながら、生産性向上を図り、さらに若者や女性が働きやすく、活躍できる環境づくりを支援するとともに、こうした企業努力や優良ポイントを見える化し、多様なメディアを活用しながら企業の魅力を情報発信していくことが重要と考えます。高校生・学生の地元就職、Ｕ・Ｉターンの促進を図るために、小さい頃から地元で働くイメージを持ってもらうことが必要であります。地域でのお仕事体験、見学、インターンシップの取組をさらに進めていただきたいと存じます。産業界としては、県当局並びに各構成機関の皆様との連携強化を図りながら、中小企業の働き方改革の推進、企業の魅力発信等につきまして、着実に成果をあげてまいりたいと考えておりますので、引き続き御支援御協力のほどよろしくお願いいたします。以上でございます。

【会長】

ありがとうございました。

コロナ禍による経済的・社会的影響がまだ残っているところに、ウクライナ戦争や円安による燃料費や物価高騰の問題が重なっていますが、その一方、コロナ禍で地方志向が強まるという風がありましたが、それがなくなってきているということで、胸突き八丁的な状況を迎えているような感じであります。一方やるべきことがよりはっきり見えてきていることもあり、今日の協議や報告のなかで確認できたように、やるべきことをきちんとやっていることによる効果というのはしっかり出ているというところがありますので、大変な経済社会状況ではありますけれども、情報の共有、発信をしっかりやりながら、働く人、生活する人それぞれの人間性が損なわれないようにしていくことで前に進んでいくことができると思いますので、頑張ってまいりましょう。

本日は誠にありがとうございました。

４　閉会